

【考え・基礎知識】

英語と日本語との建物の表し方の違いに気付いたり、道案内の仕方に慣れ親しんだりする。

【つながり】

異文化間交流活動で交流する留学生等に、自分の住んでいる地域にある建物や場所について、外国から来た人に道案内する。

【応用・ひろがり】

英語を用いて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

◇ 学年 第6学年

◇ 単元 Hi, friends! 2 Lesson 4 Turn right.

◇ 単元の目標

○積極的に道を尋ねたり、道案内したりしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】

○英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。【言語や文化に関する気付き】

◇ 単元の計画（全6時間）

学習活動	時数	指導上の留意事項
<p>課題の設定（1）</p> <p>○町が実施する異文化間交流活動で留学生に、自分の町の建物（場所）を紹介する活動をする単元のゴールイメージを持つ。 ・異文化間交流活動で来られる留学生から届いた自分たちの町を紹介してほしいというメッセージをWebで視聴し、どのような町の紹介をすればよいのかという課題意識を持つ。</p>	1	<p>★外国語活動では、外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目標としている。そのために、小学校段階では、児童の身近な暮らしにかかわる題材を用い、実際に英語を使用する必然性のある目的・場面・状況を設定することが有効である。</p>
<p>情報の収集・整理（1）</p> <p>○町の特徴をよりよく知ってもらうためには、どの建物（場所）をどのように留学生に紹介すればよいかを話し合う。 ・どの建物（場所）を紹介するのか。 「古墳など、歴史的なものがある郷土資料館を紹介すると、町の歴史を知ってもらえるよ。」 「商品となるほどおいしい水が流れている川を紹介して、ペットボトルで販売されている水を飲んでもらう。」 ・どのような方法で紹介するのか。 「紹介したい建物（場所）を記載した地図を作って道案内ができるようにしましょう。」 「建物（場所）でできること、特産品として作られているもの等を説明する際、英語で十分伝えられないことは、写真や絵を用いて伝えよう。」 ・建物（場所）の紹介の英語での言い方をどのように調べるのか。 「ALTや中学生に聞いてみよう。」</p> <p><解決に向けて必要な学習活動>（2）</p> <p>○英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。</p>	1	
<p>（例） police station (office) は警察署をさす。また、police box は日本の交番をさすが、アメリカでは移動式の派出所などをさす。交番はもともと日本のものであるため、アメリカでも“KOBAN”と呼んでいるところもある。等</p> <p>○建物（場所）・目的地への行き方を尋ねたり答えたりする言い方を知り、慣れ親しむ。 （使用表現）Where is the park? Go straight. Turn left. 等</p> <p>★活動の設定（例）①サイモンセックス・ゲーム（英語での指示を聞いて、動作をする） ②チャンツ（デジタル教材の音声聞き、まねる） ③ペア活動（いくつかの建物・場所を道案内をし合う） ④自分で行きたい場所を選び、道案内をし合う。</p> <p>○相手意識を持って、分かりやすく道案内する工夫を考える。 ・既習表現を想起し、何ができる建物（場所）か説明を加える。</p> <p>（自分達）This is the shrine. （留学生）What is it? （自分達）（写真や絵を用いて） It is a scared place. “Kami-sama”, “Gods” live there. （留学生）Where is it? （自分達）（自分たちが作成した地図を使いながら） Go straight. Turn left. You can see it. You can pray to God.</p>	2	<p>○副教材（“Hi, friends!”等）で扱われている建物（場所）だけでなく、児童の身近な建物（場所）を扱うことで、日常生活における英語の活用につなげるよう配慮する。</p>
<p>実行、振り返り（2）</p> <p>○自分たちの作った地図を用いて、実際に留学生に町の建物（場所）の道案内をし、それについての紹介をする。 ○留学生からの「神社のことがよくわかった」や「豊かな自然が素晴らしい」等の感想を聞き、今後の英語でのコミュニケーションの意欲に繋げる。</p>	2	<p>★慣れ親しませるための活動を設定する際は、配列が児童の思考の流れに沿ったものになるよう配慮する。 例 ↓ ①「聞く」活動 ②「聞いてまねる」活動 ③「話す」活動 ④「自分で選んで話す」活動</p> <p>○既習表現を想起させ、単元・学年を超えて繰り返し活用させることで、使用表現を広げさせる。</p> <p>★実際、英語でコミュニケーションを行うことができた体験を基に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲につなげることが大切である。</p>